

近世哲学研究

第 5 号

- 「常に誤る」と「時々誤る」 —— 武藤 整司 1
——デカルト的行論の一考察——
- デイルタイに於ける客観的精神の概念について —— 折橋 康雄 28
- ハイデガーの他者論 —— 安部 浩 47

1998

Epistola XI

京大・西洋近世哲学史懇話会

編集後記

例年、原稿が集まり始めるのは夏も終わりの頃であるが、昨年はその夏以来、すこぶる「変調な」天候続きであった。前半はまだしも、盛夏の頃になっても夏らしい炎暑はほとんどなく、そのくせ残暑の時期にはいつまでも蒸し暑さが残り、おまけに豪雨と台風による被害が各地に相次いだ。変調なのは、天候ばかりではなかった。政治や経済の世界、果ては一般の市民生活のなかにまで、政変あり、倒産あり、砒素ありと、まったく変調というほかない事態や事件が続いた。

このような変調のあおりを受けたわけではないが、本誌第五号も当初の計画通りには進まなかった。当初予定の五篇の論文は、諸般の都合で残念ながら、結局は三篇のみを掲載することになり、また年内刊行の予定も大幅にずれこむことになってしまった。創刊以来、とにかく始めての事態であり、変調といつてしまえばそれまでだが、やはり会員諸氏にはお詫びを申し上げねばならない。

しかし執筆いただいた方々には格別の踏ん張りをお願いして、それぞれ内容充実した労作をお寄せいただいた。執筆者

各位には厚く御礼申し上げ、また閲覧に御協力いただいた方々にもいつもながら深謝いたしたい。なお創刊号より尽力いただき、今回でようやく交代となった先任編集委員の一人にも心から謝意を表したい。

年も改まり、一九九九と文字どおり「世紀末」も近づいてきた。第五号というひと区切りを何とか乗り越えたが、今後とも世の変調に動じない安定と持続を目指して進んでいきたいものである。

編集委員会

代表	委員	協力
藪田 坦	子野日俊夫 福谷 茂 武藤 整司 次田 憲和	浅沼 光樹 吉川 康夫 倉田 隆 福田喜一郎

『近世哲学研究』

第1号 (1994)

祝辞	酒井 修
ハイデッガーにおいて哲学を —現存在の現象学的存在論考究—	田中 敦
カントと初期フィヒテとの接点	北岡 武司
義務論としてのカント倫理学 —功利主義との対比—	蔵田 伸雄
仮象と反省 —ヘーゲルの矛盾概念の理解のために—	山脇 雅夫

* * *

第2号 (1995)

カント哲学における「経験」概念について —「世界」概念導入のための端緒として—	福谷 茂
ヘーゲルのコルポラツィオン論 —市民社会の団体主義的変革へ向けたヘーゲルの試み—	早瀬 明
工学はどういうタイプの学問か	斉藤 了文
信仰の情熱とその逆説 —ケルケゴール『おそれとおののき』におけるアブラハム解釈をめぐって—	田中 一馬
ハイデッガーのヘーゲル解釈 —意識の二義性への転換—	橋本 武志

第3号 (1996)

- 『全知識学の基礎』の到達点 子野日俊夫
- 読書人世界から学者共和国制度へ 福田喜一郎
—理性を制度化しようとしたカントの試み—
- デカルトにおける愛の区別について 武藤 整司
- 未済の人倫 石田あゆみ
—『精神の現象学』主・奴論の一解釈—
- ガダマーのデイルタイ批判 折橋 康雄
—『真理と方法』を中心に—

* * *

第4号 (1997)

- 一本の綱 (Seil) としての人間 吉川 康夫
—ニヒリズム状況下に於ける人間と社会の問題—
- デカルトの懐疑について 安藤 正人
—『省察』の「反論と答弁」を資料として—
- 市民と国家の媒介 小川 清次
—「国民」形成の一側面—
- 『存在と時間』に於ける可能性概念の多義性について 橋本 武志
- 自然主義的存在論の隘路 次田 憲和
—フッサールの「領域的存在論」における超越論的構成の自己関係の構造—

執筆 者 紹 介

武藤 整司 高知大学助教授
折橋 康雄 愛知大学非常勤講師
安部 浩 仏教大学非常勤講師

(執筆順)

近世哲学研究 第5号

1999年2月10日 発行

編集・発行 京大・西洋近世哲学史懇話会
編集代表 藪田 坦
〒606-8501 京都市左京区吉田本町
京都大学文学部
西洋近世哲学史研究室
T E L (075) 753-2813
振替 01080-3-31430

印刷所 協和印刷株式会社
〒615-0052 京都市右京区西院清水町13
T E L (075) 312-4010(代)

定価 1200円(本体 1143円)

STUDIES
in
MODERN PHILOSOPHY

No. 5

- Seiji MUTÔ : *Semper fallar et interdum fallar* 1
—Du raisonnement cartésien—
- Yasuo ORIHASHI : Dilthey über den Begriff des objektiven Geistes 28
- Hiroshi ABE : Das Problem des Anderen bei Heidegger 47

1998

Epistola XI

Published by
The Society for The History of
Modern Philosophy
at Kyoto University